

生涯**楽**習 だより

第87号 <春号>

2024年4月1日 発行



撮影場所：多摩川河川敷
写真提供：「悠学の会」映像グループ

第87号のテーマ

一区切りをつけて 新たな前進を！

P.2

3/31「学び返しフェスタ」開催！

生涯学習センターで開催している様々な講座の成果発表の場として、「学び返しフェスタ」を3月31日（日）に開催します。お楽しみに！ <詳細は2面をご覧ください>

P.1

「悠学の会」20周年に当たって
奥野代表からのメッセージ

P.3

「学びを楽しむ 学びを支える」[17]
府中を音楽で満たしたい 神垣さん

P.4

【ふちゅう東西南北】市境を超えて
国立市の学びのポイントを巡る

府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」 20周年に寄せて

時代の変遷に先駆ける活動を

「悠学の会」代表 奥野英城

生涯学習センターは、市民が様々な学びを進める拠点として30年前に開設され、ずっと学習に、趣味の活動に、そしてスポーツ活動に利用されてきました。

その中で、私たち「悠学の会」は市民のみなさんの生涯学習を支援するボランティア団体として20年前に設立され、市および学習センターの指定管理者と協力して、学習情報の提供、教養講座やパソコン講座の企画運営のお手伝いをしてきました。

生涯学習と聞けば、難しい、堅苦しいと思われがちですが、私たちが人生100年を心豊かに充実感をもって楽しく生きるためには、学びは大変大切な要素だと思います。人生そのものが学びの連続です。今、社会は激しく動いています。若いときに学んだ知識や経験だけでは長い人生を楽しむことはできません。デジタル社会とかSDGsとか社会の変化にマッチした学びが必要になっています。

私たちのボランティア活動も、昔と同じことをやっておればよいという時代ではありません。変化する社会の中で、どうすれば社会貢献できるのか、自分たちが楽しく学びあっていけるのか考えながら、市民のみなさんと共に頑張っていきたいと思っています。

趣味であれ、生活や教養であれ、まず自分が楽しむことを学ぶ、そして仲間と一緒に学ぶ、そんなことが出来るのが生涯学習センターです。自分だけでなく、周囲の方への思いやり、今だけでなく、地球の未来にも心を馳せながら、お金だけでなく人とのつながりを大切にするボランティア活動をめざして、新しい学びのコミュニティーを作っていきたいと思っています。これからも「悠学の会」をよろしくお願いします。

そして、私たちとともに生涯学習センターでボランティアをされる方を募っています。みなさんのご参加をお待ちしています。





生涯学習センターからのお知らせ

講座の内容を知るチャンス！

「学び返しフェスタ」開催！

3月31日（日）10：00～

詳しくは



生涯学習センターで開催している各講座に参加したいがどんな内容なのかと、若干躊躇しているあなたに朗報です！講座修了者の創作作品の展示とコーラスやダンスなどの成果発表パフォーマンスがみられる「学び返しフェスタ」を、生涯学習センターの各会場で開催します。これは講座の内容を知るチャンス!! 体験講座やワークショップも行いますので。是非ご来場くださ～い!

成果発表会

1階アトリウム

オープニングセレモニー	10:00～	府中市青少年吹奏楽団
エンディングセレモニー	16:30～	立川女子高等学校ギター・マンドリン部

2階講堂 生涯学習センター定期講座受講者による発表

	講座	時間	講師
1	オカリナ	11:00～11:20	畠山美津子
2	ウクレレ	11:25～11:45	藤木エイジ
3	ヴォイストレーニング	11:50～12:10	成田淳子
4	声楽入門	12:15～12:35	高柳圭・盛田麻央
5	クラシックギター	13:30～13:50	川俣勝巳
6	能	13:55～14:15	河西暁子
7	フラメンコ	14:20～14:40	桑原純子
8	子どもミュージカル	15:00～15:20	替地桃子・小西萌子・蛭牟田実里
9	オペラ	15:25～15:45	白川部尚子
10	殺陣SAMURAI	15:50～16:10	多加野詩子

★ 受講者の声 ★

[ヴォイストレーニング基礎] を受講したのですが、“見ると聞くとは大違い”というのはこのことだと思いました。

なにか堅苦しい理論を学ぶのかなどと思って行ってみると、講師・成田先生の軽快なトークと、なじみの唱歌や流行歌を毎回3曲4曲と歌う内容だったので、楽しく学ぶことができました。周りの人たちからも「声が出るようになったね」「聞きやすくなったよ」と言われ、また続けたいと思っています。

フェスタではその成果を一生懸命披露したいと思います。(70代 男性)

作品展

各講座の修了生による作品は、1～3階の壁面に展示しています。

体験講座

当日先着順
事前申し込み可能

体験無料！定員など詳細は上の二次元コードから

講座名	時間	場所	講座名	時間	場所	講座名	時間	場所
バルーンアート	①11:00～12:00	アトリウム	五感アート	①11:00～12:00	アトリウム	クラシックギター	14:15～15:15	スタジオ
	②13:00～14:00			②13:00～14:00		フラメンコ	15:30～16:30	小ホール
フラワーソープ	①11:00～11:30	アトリウム	スカンディアモス	①13:00～13:30	アトリウム	ミスノヘキサスロン	10:30～11:30	体育室
	②11:50～12:20			②13:45～14:15		③14:30～15:00	特別水泳教室（60分）	①10:00～クロール ②11:15～バタフライ他 ③12:30～メドレー ④14:00～中学生
0～3歳の英語教育	11:00～12:00	保育室	アナウンス	15:30～16:30	語学室	ラララサーキットライト	9:15～10:00	体育室
Excelで遊ぶ	11:00～16:00	パソコン学習室	身体よるこびヨガ	12:30～13:30	3階和室	バレーボール教室（90分）	①13:00～（初級）	体育室
ベビーマッサージ	11:00～12:00	3階和室	ミュージカル	12:30～13:30	小ホール		②14:00～（中級）	
椅子ヨガ	11:00～12:00	3階研修室	TAKARAZUKAレビュー	15:30～16:30	スタジオ			
声楽入門	13:00～14:00	小ホール						

取材 こぼれ話

谷保天満宮は 交通安全祈願 発祥の地

87号4面の取材で谷保天満宮を訪れた。今号のテーマのように“行ってみれば、意外なことを発見する”ものですね。何とここは交通安全祈願発祥の地だったのです。

今から100年以上前の明治41年8月1日に自動車の宮様と称された有栖川武仁親王殿下先導による「遠乗会」と称されたわが国初のドライブツアーが谷保天満宮を目的地と

して開催されました。梅林における食事会の席上にて我が国初の「自動車倶楽部」が設立され、日本の自動車産業の将来について語り合われました。宮様ご一行は、谷保天満宮の拝殿に昇殿参拝されたのち、整備も不十分な道を故障や事故もなく無事に帰路につかれました。これが交通安全祈願発祥の地たる所以です。(谷保天満宮略縁起より抜粋)

みなさまも新しい発見の旅に出てみませんか。

学びを楽しむ 学びを支える その〔17〕

府中を“うた”のあふれる街にしたいとプロジェクトを立ち上げた

「うたうまち府中プロジェクト」実行委員長 神垣博義さん（北山町在住）

最近「うたうまち府中」という言葉をよく見聞きするようになりました。このプロジェクトを音楽仲間と立ち上げ、府中市全体が“うた”で満ちることを目指している神垣さんに、その思いを聞いてみました。（取材：山田、西谷）



一 このプロジェクトは、なぜ始まったのでしょうか

府中の森芸術劇場が建てられてから30年余にわたって、ずっとモーツァルト・バースデイ・コンサート（MBC）が毎年1月に開催されてきました。その中心として活躍されていたのが本澤千恵子さん。彼女はMBC合唱団を創りMBCを支えてこられたのですが、この“コンサートホールが3つもある芸術劇場という恵まれた環境”をうまく活かさないかと日頃からみんなに話されていました。そして2022年のMBCに高野市長が聴きに来られたのを機に、府中を盛り上げる企画として何か考えることになったのです。

私もこの合唱団に参加していて、同じ思いの杉村康之さん（同合唱団）とファゴット奏者の依田晃宣さん、それに本澤さんの4人で、「うたうまち府中プロジェクト」を立ち上げることにしました。

昨年12月に行ったコンサート「ウィーン・フェスティバル2023」のパンフレットにその思いを載せていますので、まずはそれをご覧ください。（下の別掲を参照）

一 具体的な活動や目標は

府中の森芸術劇場に3つのホールがあるから発表会も演奏会もできる、各文化センターにはピアノが置かれている、こういうのがあって合唱団なんかも活動しやすくなる…府中の音楽環境は、やっぱり恵まれていると思いますね。周りの方からもそういう声をよく聞きます。でも宝の持ちぐされにならないように音楽活動を広げていくことが大切だと思っています。演奏会を開いたり、地元の小中高校へのアウトリーチで、音楽の楽しさ・素晴らしさを伝えたり、学校でせっかく音楽に取り組んできたのに卒業すると行き場がない、そんなことに対応できる受け皿を作ることも大切だと思います。これからやっていきたい目標ですね。

<<うたうまち府中プロジェクトとは>>

ここ府中は、音楽の都ウィーンとの都市間交流や都市名を冠した府中の森芸術劇場のウィーンホールと他市に例のない素晴らしい財産があります。

歴史と緑にあふれる街並みと合わせてこれらを生かし、国内外の一流の芸術家の演奏はもとよりアマチュアからプロフェッショナルまで、誰もが主体的に活動できる環境をつくることにより音楽が街中にあふれ、市民一人ひとりが「うたう」街を共感できる、音楽による豊かなまちづくりを目指すプロジェクトです。



一 府中に集う音楽関係者を大きくまとめていくということですか

いえ、そういうことではなく、みんなが気軽に歌や楽器演奏など、音楽を楽しめる機会づくりをしたいということなのです。「うたうまち府中」と「うた」を漢字にしていないのも、どんなジャンルの音楽でもいい、府中のあちこちで盛り上がり、最終的には草津音楽祭のような音楽祭を府中でもできればと思っています。

先の「ウィーン・フェスティバル2023」では、“音楽の文化を次の世代で活躍する子供たちにつなぐ”というコンセプトのもと、府中市のサポートをはじめ、多くの団体や企業を巻き込み、200人のうたうまち合唱団とプロのオーケストラ、指揮に西本智実氏を迎えて開くことができました。そしてイベントの中で開催した「うたうまちコンサート」には、府中第四中学校や都立府中西高等学校、府中少年少女合唱団など、老若男女の多くの仲間が集まって交流できました。こんな試みがだんだん広がっていくことを楽しみにしています。うたうまち府中プロジェクトは、音楽を愛する老若男女が誰でも参加できる音楽の集いなのです。

さらにこれからは、友好都市・ウィーン市ヘルナルス区との交流プログラムや、アウトリーチ支援活動を通して、子供たちに音楽の素晴らしさを伝え、府中市を「音楽のまち」にしていきたいと思っています。

一 ご自身はいつごろから音楽とのかかわりが

本格的には中学校で合唱に参加したことからでしょうか。大学でも男声合唱を志し活動していましたが、府中で歯科医院を開業してからは大変忙しくしてご無沙汰でした。その後アカデミー合唱団の団長さんが同じ医師だというご縁で知り合い、団に参加して合唱を再開することになりました。その後は、MBC合唱団に移籍し今に至っています。一方私は大学時代から男声合唱に魅力を感じていたので、府中男声合唱団の立上げにも参加して、今も並行して活動しています。

一 合唱の魅力はどんなところにありますか

合唱の魅力は自分の声がみんなの声の中に溶け込んでいって、包み込まれるような感じがすることですね。その感覚がたまらない。ソロでも歌いますが、合唱を体験してみるとまた違った喜びが生まれる。合唱ではみんなと一緒にという大前提があって、学ぶことも多いんです。そうした気遣いをしていると世の中が和やかになる。その楽しさを知ってもらいたいと思いますね。

最後に、このプロジェクトはみんなと歌いたくって始めました。歌ってよかったな、楽しいなという時間を過ごせばいいなということです。うたうまちのイベントを見つけたら、是非気楽に参加してください。

ふちゅう東西南北 隣接市の“学びのスポット”巡り ～国立市編～

市の境界線を越えて、隣接する市の学びに役立つ場所・スポットを巡る散策取材。今回は西のお隣・国立市の南部へ。府中駅からバスで10分余りの谷保天満宮から歩いてみた。



国立市南部を訪ねて

国立と言えば中央線国立駅周辺の洒落た商店街や大学通りの満開の桜が思い浮かぶが、今回は市の南部に点在する名所・施設を巡った。

最初は谷保(やぼ)天満宮。ここは我家からさほど遠くないのに何故か来る機会が無く、前回の参拝時期の記憶が無い。今回、東日本最古の天満宮と知って今までの疎遠を多めに反省。「近い内にまたお参りします」と礼拝してから、次に向かった先は城山(じょうやま)公園。そして国立市古民家と、くにたち郷土文化館。訪ねたのが2月だったので、季節柄どちらでも雅な昔のひな人形を見ることができた。

特に郷土文化館は立派な施設で、国立出土の土器・石器や祭事に使う道具などを多数展示して見応え充分。国立市の生涯学習の一翼を担う場所になっているようだ。

この後は清流豊かな用水路に沿ってママ下湧水を目指す。流れの中には無数の小魚が泳ぎ、野生のクレソンが緑に輝いている。そしてようやく辿り着いた湧水は、とても豊富で綺麗に澄んでいた。気付けば既に午後1時。腹は減ったが、国立市の文化と自然を大いに楽しんだ3時間であった。(竹村 稔)

ハケ下の散歩道

谷保天満宮からハケ下のかつては稲田であった低地の住宅街を歩き、ところどころに残る畔道を経て、城山公園を訪ねた。鬱蒼とした雑木林と竹林に覆われた小高い丘には、中世に豪族の館があったという。湧水が流れ、広い芝生があり、こどもたちの格好の自然の遊び場だ。「城山さとのいえ」が



あり、この地域の農業に関する情報発信の拠点となっている。すぐ前に広がる水田で田植えや収穫体験ができるそうだ。

城山公園から、ヤクルト研究所の特徴ある円形の建物を周回してハケ下の小道を歩いた。冬なので、色のある花はなかったが、道端の葉っぱを落としたかん木や、脱色して枯れた草々を見ながら春の色とりどりの花々を想像して歩くのもまた楽しかった。ハケ下の小川には緑の水草があり、湧水が流れ、小魚が群れていた。まだ水は冷たいので、川遊びはできそうにないが、春になれば子供たちの遊び天国になるだろうと想像できる。小川の流れが広がったところには、カルガモ家族が遊んでいたり、セキレイの黄色い姿があったり、この国立市の谷保界隈は実に自然が豊富な、古き良き時代の里の風景を思い体感させてくれる。

大都市近郊にこんな癒しの空間があることはかけがえのない財産で、ぜひ大切にしていってほしいと願う。(奥野英城)

谷保天満宮

受験シーズンに学生さん、親御さんと賑わう谷保天満宮は、義経公による大般若経の書写が社宝とされているとのこと。義経公はどのような心境で筆を走らせたのであろうか？周知のように要約された般若心経には「色即是空 空即是色」とある。参拝した受験生は人生を送る中で折に触れ、この8字を噛みしめることがあるのであろうかと思つた。紅白咲き乱れる梅林を奥へ進むと、崖線の上から美しい白富士が眺望できた。西行法師の「かたじけなさに涙こぼるる」という下の句が思い浮かぶほど余りにも見事な姿に清々しい気分になれた。

名物の合格まんじゅうと梅こぶ茶などが並ぶ売店を横目で見、天満宮をあとにし城山公園へ向かった(中濱敬文)



城山さとのいえ

今回の取材で歩いた城山公園は、中世には豪族の城郭があったと案内板にある。木々がのびのびと繁り、夏場は木々に涼しさを感じられることと思う。

ここには「城山さとのいえ」という建物があり、国立市内の「農」にまつわる情報などが紹介されていた。隣には古民家があり、囲炉裏や土間では昔の暮らしの様子が見られる。季節ごとに体験できる催しもあるとのこと。伺った日は係の方が囲炉裏に火を焚べていらした。今ではスイッチひとつで暖房や食事の用意ができてしまう。暖をとり食事の用意を囲炉裏を囲んでしていた頃の様子を思い浮かべながら奥の間を見てみると、畳敷の部屋があった。家族で一つの部屋で寝起きしていた頃のワイワイガヤガヤとした暖かさが・・・



なんとなく笑顔になれた。(辻 麻美)

くにたち郷土文化館

くにたち郷土文化館は城山公園から徒歩7分ほどのところにあります。雑木林に囲まれた近代的な建物がその文化館。矢川駅にも近く、歩いて10分位です。

メインテーマを「過去・現在・未来を結ぶー多摩川が育んだ段丘(ハケ)とともに生きる私たちー」とし、生涯学習の一翼を担う場として地域に根ざした博物館・文化館をめざしているそうです。

中に入るとすぐそばにある緑川東遺跡から出土した土器や石器などの品々が展示されています。機械など何もない時代に作られていたことに驚嘆しました。

また私たちの祖先も使っていたであろう民具などの展示もあり、懐かしく見入ってしまった。大國魂神社の例大祭を思わせる神輿も置かれていて、どこでも祭りごとは人々の楽しみだったに違いないと思いました。(井口文江)

